

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2016 年度

氏 名

石木 寛人

所 属 機 関

東京大学医科学研究所附属病院緩和医療科

課 題 名

終末期がん患者の筋筋膜性疼痛の頻度と部位を調べる多施設前向き観察研究

助 成 額

500,000 円

研究報告概要

筋筋膜性疼痛(Myofascial Pain Syndrome, MPS)は筋肉の過緊張や過伸展が原因で起こる筋肉の痛みである。終末期がん患者は医療機器が体に接続されたり病状の進行による全身状態の悪化によって身体の動きが制限されたり、臥床を強いられたりし、身体のような筋肉が過緊張・過進展状態になりやすい。この状態が長期間続くことは MPS の高リスクである。当院で根治不能ながん患者を対象とした後ろ向き研究では、対象集団全体の 29%、痛みを訴える患者の 45%もの患者が MPS の診断基準を満たしていた。しかしがんの疼痛に対する国内外の各種ガイドラインで MPS について記載されているものはない。MPS に対する治療は癌性疼痛の治療とは異なっているため、その緩和には患者の訴えからこれを疑い、身体を丁寧に診察して診断することが重要である。

本研究は終末期がん患者の MPS の部位と頻度を多施設前向き観察研究として明らかにする目的で行われる。MPS の診断は Rivers が提唱する研究用基準(Research Criteria, RC)を用いる。登録症例数は 200 例を見込んでおり、記述統計により対象集団における MPS の頻度と 95%信頼区間を算出する。また多変量解析を行い、患者の背景因子から MPS 出現のリスク因子とオッズ比を算出する。本研究でこれを明らかにした後は、有効な治療介入を調べる介入研究を計画し、出口戦略はがん疼痛に対する国内ガイドラインへの MPS の収載とする。

本研究に関係するすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施する。本研究は日常臨床の範囲内で行われる観察研究であり、介入や侵襲を伴わず、人体から採取された試料を用いない。そのため、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に規定されたインフォームド・コンセントを省略するための諸条件を満たしており、個別同意ではなく包括同意を選択する。